

アオサギ観察会

2007年5月25日

アオサギの繁殖生態

多くの場合、アオサギは数十から数百のつがいが一ヶ所に集まって繁殖を行います。こうした営巣場所（コロニー）の多くは日本では樹林につくられますが、樹林の無い所や特殊な条件下ではヨシ原や水上の構造物に営巣することもあります。コロニーが樹林につくられる場合には、直径 80cm ほどの皿形の巣が林の樹冠部かけられます。

アオサギは一夫一妻制ですが、普通、ペアの絆は 1 シーズン限りで翌春は新たなつがいできで営巣します。営巣は雌雄共同。巣作りが始まるのは北海道の場合だと 3 月下旬からです。早いつがいだと 4 月初旬には産卵を始め、一日おきに 3 から 5 卵を産みます。その後、ゴールデンウィーク頃にヒナが誕生、5 月、6 月にかけて育雛し、6 月の下旬には巣立ちします。各繁殖ステージの一般的な長さは、巣作り・つがい形成期が約 1 週間、抱卵期が約 26 日、育雛期が約ふた月です。孵化後約 50 日で飛べるようになりますが、その後もしばらくは親の運んでくる餌を頼ります。

営巣期間中に親が運んでくる餌の量は、4 羽のヒナがいる巣だと 100kg を超えます。無事に巣立ちを迎えるヒナは北海道の場合で一巣平均約 3 羽です。なお、営巣の開始時期はつがいによりひと月程度差があるので、巣立ち時期も同様にひと月程度ばらつきます。また、繁殖の開始時期は緯度が低い地方のほうが早く、繁殖期間も長くなる傾向があります。



アオサギの採餌生態

アオサギは魚を主な餌としており、川の浅瀬や干潟、水田といった浅い水深の水域で採餌します。餌場の範囲は広く、コロニーから餌場までの距離が 30km 以上離れていることもあります。

餌になる魚は、ウグイやドジョウのような淡水魚から、カジカ、カレイといった海水魚まで種類は問いません。くちばしサイズの大きさの魚をよく捕らえますが、30cm 程度の大きさの魚でも丸飲みします。また、アオサギの餌は魚だけでなく、エビやカニなどの甲殻類、バッタやトンボなどの昆虫類、カエルやヘビなどじつに多様です。場合によってはネズミや水鳥のヒナを捕らえることもあります。ただし、基本的に死んだ餌は食べません。なお、アオサギの成鳥が必要とする餌の量は一日あたり約 270g です。



アオサギは基本的に昼行性で、主に日中に餌を獲りますが、頻度は少ないものの夜間でもコロニーと餌場を行き来し採餌を行います。このうち日中の採餌活動は早朝と夕方に活発になります。ただし、干潟を主な餌場としている環境では、採餌活動は日周よりも潮汐周期により強く影響されます。